

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200047		
法人名	株式会社 高木建材		
事業所名	グループホームぼぶら		
所在地	山梨県富士吉田市中曽根1-8-25		
自己評価作成日	平成28年8月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個人の尊厳に立脚した自立支援。</p> <p>「目配り・気配り・心配り」を、「口を出さない・手を出さない・見逃さない」で実践し、利用者の残された能力の維持向上に努め、利用者の足らざる所を支援してゆく。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、富士山の麓の歴史ある街並みの商店街に続く住宅地の中に位置する。日当たりも良くウッドデッキ・庭・畑など、より良い環境に整えてある。建物は平屋で玄関を入ると、事務所を挟んで左右に1ユニットずつあり、いつも職員が目が届く配置である。同一敷地内に併設のデイサービスがある。双方の利用者の交流があり、以前からの知り合いと馴染みの関係継続になっている。また交流の中から、新たに馴染みの関係が築かれている。日々の健康管理は看護師が行っており利用者や家族だけでなく職員の安心にもつながっている。地域との関係づくりに努めており、調査当日も地域の文化祭に出品する貼り絵を利用者・職員で作成していた。職員は利用者の心に寄り添うことを大切にゆったりと対応し、利用者の一人ひとり、その人に合った支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	「目配り、気配り、心配り」の理念の基に、利用者の心に寄り添い利用者が意欲を持って暮らせることを目指して支援している。その人にとって本当に必要な支援は何かを職員会議などで共有し支援が行われている。問題が起きた時も利用者にとって何が必要なケアなのかを話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加している。	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加している。	自治会に加入しており、地域の情報を得たり自治会の祭りや文化祭などに参加している。文化祭への出品は恒例となり地域から期待されている。月1回、定期的に音楽ボランティアが来訪し利用者も唄を楽しんでおり、他に市立保育園、私立託児所などとの交流もある。小さい子との交流は利用者にとって特別な楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加をしたり、地域住民が参加が出来るイベントを開催し、地域交流の中で貢献している。	積極的に地域行事に参加をしたり、地域住民が参加が出来るイベントを開催し、地域交流の中で貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見や課題、評価を施設内でも分析し利用者へのサービス向上を図っている。	頂いた意見や課題、評価を施設内でも分析し利用者へのサービス向上を図っている。	2か月に1度開催され、家族には事前に都合を聞き出席してもらっている。近況の報告後、質問・意見を聞いている。災害時の対応や、事業所周辺道路の除草などの要望はメンバーの市議会議員に調べてもらい、問題解決に至った。他に要望のあった職員の写真を掲示するなど、出された意見・要望は直ぐに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	介護保険に関する書類の提出や、相談ごとなど機会あることに担当者とのコミュニケーションに努め、事業所の現況を知ってもらおう努めている。入居待機者の状況などの問い合わせもあり、良好な協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。	外部研修には代表者が参加し、内容は全職員に伝え、身体拘束について正しく理解している。帰宅願望から外に出ようとする利用者には職員が付き添うが、その際の事務所職員の応援体制もある。日々の支援の中で不適切な言葉かけがあれば職員間で注意し合っている。夜間のみ危険回避のため、やむなくセンサー、ベッド柵を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内通信や研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。	社内通信や研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーを中心とし、必要に応じて関係者と話し合い、活用の際は職員含め、支援に努めています。	ケアマネージャーを中心とし、必要に応じて関係者と話し合い、活用の際は職員含め、支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけて説明し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。	契約時、時間をかけて説明し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	利用者の意見・要望は日常的に聞き、また会話の中から気付くこともある。家族の来訪時には、日ごろの様子を話し要望や意見を言える雰囲気づくりに努めている。職員の名前が分からないとの意見には玄関前に写真を掲示、毎日のようすについての質問には「ぼぶら通信」で報告するなど要望を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケーススタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っています。	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケーススタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っています。	利用者へのケアについては毎日のミーティング、月1回の職員会議などで提案を受けている。福祉事業部代表とのヒアリングの機会があり管理者・部長とは随時、行っている。有給、給与について、仕事の負担が重いなどの意見が出された。有給取得時期の調整で休暇を取りやすくし、調理専門職員を置くなど意見を受け止め反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、資格、研修実績、利用者や家族の評価等を客観的に数値化し、職員のやりがいに つなげるよう、制度改革に着手している。	職員の勤務状況、資格、研修実績、利用者や家族の評価等を客観的に数値化し、職員のやりがいに つなげるよう、制度改革に着手している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の人生の来歴を把握、理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者本人の人生の来歴を把握、理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービス導入している。	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービス導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のベースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行う機会を提供している。	利用者のベースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行う機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡のやり取りをするほか、面会をしやすい環境を整えるなど支援をしている。また、外出なども自由に行えるようにしている。	定期的な連絡のやり取りをするほか、面会をしやすい環境を整えるなど支援をしている。また、外出なども自由に行えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方とお話をされたりしています。	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方とお話をされたりしています。	入居前に、ケアマネジャー・管理者・リーダーが利用者宅を訪れ本人・家族から、これまでの生活歴を聞き取っている。入居後の暮らしの中でも本人の言葉や来訪した人からの話から職員が気づいたことをファイルに記録している。馴染みの理容店、帰宅、お墓参りや無尽会などへの参加も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席決めに配慮したり、利用者同士の関係性を築ける様支援している。	リビングでの席決めに配慮したり、利用者同士の関係性を築ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お世話になりましたと差し入れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職員とさせていただきます。入院時には、医療関係者と情報提供しながら、ご家族の相談に応じています。	お世話になりましたと差し入れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職員とさせていただきます。入院時には、医療関係者と情報提供しながら、ご家族の相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは個別に、その方の想いや希望を把握し、ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニングし、実践しています。	スタッフは個別に、その方の想いや希望を把握し、ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニングし、実践しています。	日常生活の中から、ふとした言葉やしぐさを見逃さず、気づいたことを記録に残し職員間で情報を共有している。利用者の一人ひとりの思いや個性を把握し、リビングでの席を替えるなど利用者の思いや関係性に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の中でも情報を拾い上げ、その情報をスタッフの中で共有している。	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の中でも情報を拾い上げ、その情報をスタッフの中で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集し共有している。	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制により、課題やケアのあり方を、スタッフケア会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意見をまとめながら計画を作成している。	担当制により、課題やケアのあり方を、スタッフケア会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意見をまとめながら計画を作成している。	入居前に、本人、家族からの聞き取りを行い暫定プランを作成して、1か月後、職員、週1回訪れる看護師の意見も聞いて介護計画を作成している。以後は毎月モニタリングを行い家族からの意見も聞いて6か月に1度の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有することにより、統一された支援や、介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有することにより、統一された支援や、介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況をDr.に伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立て頂いています。	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況をDr.に伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立て頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に、各ボランティア団体と交流が来ていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っている。	日常的に、各ボランティア団体と交流が来ていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	本人・家族の希望通りの医師・医療機関での受診を支援している。利用者の内8人が入居前からのかかりつけ医での受診で家族が対応している。他の利用者は月2回、近隣の病院からの往診にて受診している。急な体調変化や夜間などの対応もしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切な看護に資するよう努めている。	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切な看護に資するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡、情報交換を行い、退院後も安心して生活できるよう病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡、情報交換を行い、退院後も安心して生活できるよう病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については契約時に時間をかけて説明し、現状でできる限り、事業所として対応支援することを説明している。	重度化した場合については契約時に時間をかけて説明し、現状でできる限り、事業所として対応支援することを説明している。	契約時に、重度化した場合に事業所としてできること、できないことを説明し本人・家族の意向を確認している。重度化した場合、状況変化に応じて家族の安心と納得が得られるよう話し合っている。往診に対応してもらっている医療機関と連携体制は整っており、昨年、看取り支援を経験した。家族も泊まり職員と共に大切な時間を過ごしてもらった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう努めている。また、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう努めている。また、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月、夜勤時を想定して行っている。地域の方との協力体制については、民生委員さんや自治会長の方々と考案中です。	避難訓練は毎月、夜勤時を想定して行っている。地域の方との協力体制については、民生委員さんや自治会長の方々と考案中です。	年2回消防署の指導のもとに初期消火、通報、避難、搬送方法などの訓練を行なっている。また毎月夜勤者を対象に、夜間の火災を想定した訓練を実施しているが、利用者の具体的な誘導避難は行っておらず職員も不安を感じている。また噴火災害が取りざたされているが、県・市との情報交換を検討している。	施設内での訓練は定期的実施されているが、夜間の火災、広域的な災害など事業所のみでの対策には限界がある。地域の協力体制を築くための取り組みを、ひとつづつ積み重ねることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使いやプライバシーに配慮するよう心掛けている。	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使いやプライバシーに配慮するよう心掛けている。	きめ細かいプライバシーへの配慮や、個人情報、書類保管、扱いは厳重で、守秘義務も徹底している。希望であれば同性介護を行ない、言葉遣いも基本は敬語を使っている。方言の方が受け入れやすい利用者もあり、本人の心地よい言葉遣いを心掛けて、人権尊重の対応に努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合う。	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、スタッフがお手伝いをしている。	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、スタッフがお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	調理を担当する専門の職員がいるが利用者も力に応じて調理に加わっている。役割があることで張り合いや自信につながり、楽しげである。食材は肉・魚は地域の商店に注文し届けもらい他は職員が買い出しに行き、時にはいっしょに利用者が行くこともある。誕生日には回転寿司など、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。	食べる量や水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員が職員が確認し、必要に応じて仕上げ洗いを行っている。	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員が職員が確認し、必要に応じて仕上げ洗いを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考にして、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄記録を参考にして、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄チェックシートに記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導などの支援は、さり気なく行うよう配慮している。3~4人はリハビリパンツ・パットを使用している。利用者によっては夜間のみポータブルトイレを使用するなど、本人の生活リズムに沿った支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今まで朝飲んでいただいていた牛乳を飲むヨーグルトに変え、体操も取り入れ、便秘の改善に努めています。個々によっては、内服薬の見直しもしている。	今まで朝飲んでいただいていた牛乳を飲むヨーグルトに変え、体操も取り入れ、便秘の改善に努めています。個々によっては、内服薬の見直しもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	基本的には週2回の入浴となっているが利用者の希望や状況によって柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には、職員が話し合い、言葉かけのタイミングや対応を変えたり、入浴剤を使い気分転換を図るなど工夫している。また入浴時を体調の管理のための大事なチャンスととらえて入浴支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぶら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに報告している。	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもって頂いたり、趣味として好んでいる事に取り組んで頂くよう配慮している。	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもって頂いたり、趣味として好んでいる事に取り組んで頂くよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けている。	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けている。	特別な外出は気候の良い、春・秋の外出の機会が多々みんなで花を見に出掛けたり家族を交えての花見や紅葉狩りなどの行事がある。日常的には散歩やドライブ、地域のお祭り等にも出かけている。また、図書館に行ったり、近くの店に買い物に行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	残された能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。	残された能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	居間・食堂は、ゆったりと広く、吹き抜けの天井が開放的で心地よい光を取り入れている。ガラス戸からウッドデッキ・庭へと続き、季節の移ろいを感じることができる。寒冷地であるため床暖房や暖房機の使用は必須で乾燥がひどく、湿度管理は機器の他に洗濯物を干すなど工夫をしている。職員は、共有空間での利用者の緊張感に配慮した居場所づくりを配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	居室はベッド、クーラー、レースカーテンが備え付けである。居室入り口には表札が掛けられ、室内には使い慣れた家具や写真などが置かれ、馴染みの物を活かして利用者が落ち着ける場所を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸と居室の戸の色分けや、居室からトイレの導線に配慮、手すりの配置、ベランダから庭へと続く、癒し空間の設置等、工夫をこらしている。	トイレの戸と居室の戸の色分けや、居室からトイレの導線に配慮、手すりの配置、ベランダから庭へと続く、癒し空間の設置等、工夫をこらしている。		